

## 令和8年度 大保木地区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】令和 8 年9月 17 日(木)14:00～15:30

【場 所】石鎚ふれあいの里 研修室

【参加者】地域:12 人(連合自治会長ほか)、傍聴:1人

市:市長、産業部長、大保木公民館長(司会)

【テーマ】(1)「稼ぐ産業」への農林水産業の転換支援について

(2) 水源涵養・森林整備の推進について

(3) 林業(森林・水源管理)について

(4) フリートーク

①水力発電所に係る交付金について

②森林環境贈与税について

③宿泊施設・民泊について

④山間部の道路・登山道について

⑤地域を支える人材の育成について

### R8.9.17 当日の発言内容

#### 挨拶(大保木連合自治会長)

- ・大保木地区は非常に過疎化が進んでいる。(2005 年から 2025 年に 100 名ほど減少した)
- ・しかし、地域は大変広いという中で、色々問題を抱えている地区。
- ・今日は忌憚のないご意見を出して、今後の取り組みについて検討をさせていただきたい。

#### 市長挨拶(西条市長 越智三義)

- ・昭和 62 年に市役所に入庁し、最初に農林水産課へ配属され、畜産関係をはじめ、農林水産業に関わるさまざまな仕事を担当した。
- ・大保木地区についても、高嶺小学校跡地を活用したふれあいの里に関する事業や兎之山の水田の現地確認に行ったり、黒瀬ダム公園を2つ揃えたとか、さまざまな事業に携わってきた。
- ・大保木は西条市にとって大切な地域であり、特に市民の暮らしを支える「水」を生み出す重要な場所である。
- ・これまでの経験も生かしながら、地域の皆さんと一緒に大保木の将来について考え、地域が抱える課題の解決に取り組んでいきたい。

## (1)「稼ぐ産業」への農林水産業の転換支援について

### ■参加者

- ・大保木地区では人口減少や農家の高齢化、後継者不足が進んでいる。
- ・山間部の農地は段差があったり、不整形な土地が多く、農地の規模拡大が難しい。
- ・有害鳥獣による農作物被害も深刻化しており、農地を維持するためのマンパワーも不足している。
- ・意見交換のテーマとして3点を挙げたが、いずれも一つひとつの課題を個別に解決できるものではないと考えている。大きな方向性や考え方について、市から示していただきたい。

### ●市長

- ・農業は西条市の基幹産業であるが、地域によって農業の形は異なるため、それぞれの地域に合った農地の維持方法を考える必要がある。
- ・今後4～5年の間に、農地をどう守っていくのか、地区計画を通して真剣に考えていきたい。
- ・農家だけで農地を維持することは難しく、建設業や設備業など、地域のさまざまな業種の人材や技術を農業に生かす取組も必要。
- ・消費者との信頼関係を築き、適正な価格で販売することも、中山間地域の農業を継続する上で重要。
- ・有害鳥獣被害を完全に防ぐことは難しいため、クロモジなど、山間部の特性を生かした鳥獣被害を受けにくい作物や加工品にも挑戦し、農業・林業を含めて「稼ぐ産業」にしていく必要がある。
- ・地域で乾燥機や農機具を共有するなど、現在ある設備を有効活用しながら、農地をどう維持していくか考えていきたい。

### ■参加者

- ・西条市の農業は「生業としての農業」と、「自給の農業」を分けて考える必要がある。
- ・「生業としての農業」は単一作物で効率化していく。
- ・土地が狭いところは、「自給の農業」か、複合的に高付加価値のある作物に変えていかないと、生き残るのは厳しいと思っている。
- ・山間部は高知の方では、ゆずが足りないから作ってほしい等の要望があるので、そういう情報を集めながら切り替えていく必要がある。

### ■参加者

- ・趣旨は十分わかる。実現するのは至難の業。
- ・農業者の高齢化や後継者不足により、農地が荒廃することが懸念される。
- ・米作りは農地保全に有効だが、収益性がなければ草刈りなどの維持管理も難しい。
- ・鳥獣被害が深刻化しており、畑での花木栽培など、代替収入の確保にも取り組んでいる。
- ・農地の荒廃防止や保全に向けた有効な対策について、行政の考えを伺いたい。

### ●市長

- ・いろんな事例を集めてきます。

- ・飯岡地区でも、農業者の高齢化により「もう限界なので作ってほしい」という農地所有者が増えており、今後の農地管理が課題となっている。
- ・今後 5 年、10 年先を見据え、誰が農地を管理していくのか、地域全体で真剣に考える時期に来ている。
- ・農業機械を新たに購入するのではなく、地域内のトラクターや草刈り機、乾燥機、田植え機などを共有・活用し、効率的な農地管理を進めていくのも良い。

#### ■参加者

- ・水が豊富という地域特性を生かし、キュウリを育て始めている。
- ・50 代の比較的若い方に栽培していただいております、少し期待しています。

#### ●市長

- ・ゆずは、サルとか来ないですか？

#### ■参加者

- ・そういえば、来ますね。
- ・水田で花で思いついたのは、スイレン、オモダカ、ウリカワ、ヒツジグサとか。ホームセンターで売っているウォータープランツの栽培には水田が向いている。

#### ●市長

- ・やっぱり、山の特性を生かした作物は可能性がある。

#### ■産業部長

- ・兎之山地区の水田については、中山間の取り組みを活用できる可能性がある。
- ・急傾斜地の要件を満たすかどうか、専門業者による測量・確認が必要となる。
- ・制度を活用することで、農道の保全や水路の補修、草刈りなどの活動に対して交付金を受けられる場合がある。
- ・急傾斜地の要件を満たさない場合でも、一反あたり約 8,000 円程度の交付となる可能性がある。
- ・詳細については、農水振興課に相談していただきたい。

#### ●市長

- ・青地の農地は、国としても保全すべき農地と位置付けられており、草刈りや水路清掃などの環境保全活動に対して、一反あたり 8,000 円の交付金が支給される制度がある。
- ・制度の活用には、土地改良区などの受け皿組織が必要であり、草刈りや水路清掃の実施前後の写真撮影・報告などの要件がある。
- ・当該制度は 10 年以上前から存在しているが、兎之山地区で活用されていなかった場合は、市としての周知が十分でなかったことを申し訳なく思う。
- ・まずは一反あたり 8,000 円の交付制度の活用に向け、手続きや準備を早急に進める。

## (2)水源涵養・森林整備の推進について

### ■参加者

- ・今回の提案は、一つの案として受け止めていただきたい。
- ・大保木地区は加茂川流域の重要な水源域である一方、急傾斜地が多く、木材生産を目的とした林業の事業展開は難しい。
- ・林業と水源涵養、森林管理を別に考えないと、森林整備の中で林業を成り立たせるのは難しい。
- ・市町村合併による市域の拡大や市職員の減少、定期的な人事異動による専門外の職員の配置などを踏まえると、行政だけで地域課題に対応することは難しい。
- ・市役所、民間企業、地域団体などが連携し、地域課題をともに考える仕組みが必要である。
- ・他自治体では、当初予算の編成段階から地域や関係者と一緒に検討する取り組みも始まっている。
- ・若手職員の流出も課題であり、人材の確保や組織の在り方を見直さなければ、西条市のさまざまな課題に対応できず、市職員の負担や疲弊につながる。
- ・水源域の森林が市外へ流出することを防ぐため、一般社団法人などの民間団体が森林を寄付・購入により受け入れ、管理する仕組み(半公有化)を考える必要がある。

### ●市長

- ・戦後に植林された森林が管理されないまま限界を迎えており、水源涵養だけでなく、土砂流出などの問題にもつながっている。
- ・水源涵養を重視する森林は天然林化するなど、生業としての林業と森林管理を分けて考える必要がある。
- ・国土調査については、リモートセンシングを活用して森林の状況を把握し、そのデータを国土調査にも活用する取組を進めていく。
- ・森林の相続放棄などにより、市がすべてを受け皿になることは難しいため、一般社団法人など民間団体が森林を管理する先進事例も研究しながら、地域の若い世代と一緒に考えていきたい。

### ●市長

- ・今、一般社団法人でどんどん受け入れていっているか。

### ■参加者

- ・1件の相談がある。

### ■参加者

- ・大保木小学校から県道までの区域では、相続登記が進んでおらず、2～3代前の故人名義の土地が残っている。
- ・相続登記には多額の費用がかかるほか、分筆による土地の細分化も進んでおり、森林管理に向けた大きな課題となっている。
- ・将来的に土地を一般社団法人へ委ねる場合、相続登記などにかかる費用負担に対するメリットや、森林管理・水源涵養以外の具体的な利点を示す必要がある。

- ・地権者の理解を得るためには、森林の価値を金額に換算し、木材や土地の価値に応じた収益が地権者に還元される仕組みなど、具体的なメリットを提示することが重要である。
- ・地権者に納得してもらえる条件を整理し、一般社団法人による森林管理の仕組みを地域全体で進めていく必要がある。

#### ■参加者

- ・私のところは祖母名義のまま残っている土地について、法定相続人としての手続きを進めた。
- ・山林や宅地が残っているが、固定資産税は課税されていない。
- ・国土調査については、調査時に立ち会う予定としている。
- ・自身の兄弟については相続手続きを完了しているが、父の兄弟が手続きを進めておらず、現在そこで止まっている。
- ・相続関係者全員の手続きが進まないことが、土地の整理における課題となっている。

#### ■参加者

- ・市役所から届いている森林管理に関するアンケート。これは一つの方法ではないか？

#### ●産業部副部長

- ・林業経営に適さず、所有者による管理が難しい森林を対象に、現在、意向調査を実施している。
- ・森林をそのまま放置すると、水源涵養などの面でも課題が生じるため、市が一定期間管理する仕組みを検討している。
- ・具体的には、まず5年間、市が経営管理権を預かり、その間に伐採可能な森林については伐採・間伐などの森林整備を行う考えである。
- ・意向調査の内容や制度の説明が分かりにくい部分もあるため、表現や周知方法について改善を検討する。

#### ■参加者

- ・私のところに届いていたのは、経営が困難という場所ではなかったが…

#### ●産業部副部長

- ・意向調査は、まず一定のエリアを対象として一斉にアンケートを実施している。
- ・すでに森林組合などに依頼して、自ら森林を管理している所有者については、その状況を回答してもらうことで把握する。
- ・一方で、相続などにより自分が山林を所有していることを把握していない方もいる。
- ・そのため、今回のアンケートは、森林の所有・管理状況を把握するとともに、今後どのように管理していくかを確認することを主な目的としている。

#### ■参加者

- ・相続が2代、3代と進むにつれて相続人の範囲が広がり、手続きが非常に難しくなる。
- ・法律上、相続手続きを進める必要があることは理解しているが、実際には相続人が多くなり、手続きを進めることが困難なケースも多い。

- ・全国的に同様の状況にある山林が多いと考えられるため、現行制度だけではなく、こうした問題を解消するための新たな法制度などが必要ではないか。
- ・市が森林を預かる仕組みがあるとのことだが、国として森林を預かる制度についても検討されているのか。

#### ●市長

- ・相続登記は義務化されているものの、実際の手続きは難しい。
- ・全国共通の課題であり、国に対して対応を求めていく必要がある。

#### ■参加者

- ・木材が良かった時代を知っている人がまだ若干残っているんですね。

### (3)林業(森林・水源管理)について

#### ■参加者

これはかなり重要な意見である。

単純に「林業をどう儲かる産業にするか」ではなく、林業・水源涵養・環境保全・山村の暮らし・人材継承を一体で考えるべきという話であり、議事録も残す必要がある。

#### ●参加者

- ・林業の課題を突き詰めると、木材価格の低迷が大きな要因であり、今後、木材価格が再び大きく上昇することは考えにくい。
- ・西条市は製材業など川下の環境は整っている一方、急峻な地形による制約が大きく、他地域の大規模な林業手法をそのまま導入することは難しい。
- ・例えば、九州や中国地方から搬入される木材と、西条市の石鎚山麓で生産される木材を同じ単価で競わせることは、地理的・地形的な条件から非常に厳しく、「少年野球とメジャーリーグくらいの差がある」と感じている。
- ・そのため、木材生産だけでなく、水源涵養、環境保全、防災、観光など、森林が持つ多面的な価値を含めて山林を捉える必要がある。
- ・おそらく林業というよりは、そういった環境保全の方向が予算はつけやすいと思う。
- ・例えば観光面では、外国人観光客にとって、日本の水田や山林、山村など、人の暮らしが残る「原風景」に価値があるとされている。
- ・林業関係者の伐採や草刈りなどの技術は、農地や山道の管理などにも活用できるが、そうした技術を持つ人材が減少していることが一番の大きなリスクである。
- ・これは林業だけでなく山間部の集落全体に関わる課題であり、山村の暮らしを維持するためにも、林業の技術や人材を残す仕組みについて、市として県や国とも連携して考えてほしい。

#### ●市長

- ・地区ごとに課題や条件が異なるため、今回をきっかけに、地域の若手や建設業など、さまざまな立場の人

が参加して地域の将来を考える場をつくりたい。

- ・森林環境譲与税なども活用しながら、林業だけでなく、山村の維持や森林整備などを考えていく。
- ・役所の職員も現場に入っていき、その際に建設業の若手や高校生など若い世代にも地区ごとの議論に参加してもらい、話し合いだけで終わらず、実際の行動につなげていきたい。

#### ■参加者

- ・林業の技術は林業だけでなく、土木工事など他分野にも応用でき、実際に測量業者と協力したり、林業の技術者が林業以外の仕事を担ったりするなど、相互に活用できる部分がある。
- ・林業の担い手を増やすためには、県や市が進める移住政策も重要である。
- ・実際に東京や大阪から移住してきた林業従事者の中には、「地域の役に立ちたい」という思いを持つ人もおり、祭りへの参加や草刈りなど、仕事以外の地域活動にも積極的に関わっている。
- ・今後は学生や移住希望者に対して、林業や土木などの仕事の魅力だけでなく、地域を支え、暮らしを守る仕事としての「泥臭い部分」も含め、より現実的な姿を伝えていくことが重要ではないか。
- ・危険を伴う土木工事やインフラ維持などを担う技術者を、行政としてどのように確保・育成していくかが重要であり、現在の移住政策などに、こうした視点を加えていくことも有効ではないか。

#### ●市長

- ・そういった若者に刺さる取り組みをしている職員がこの場にいる。意見ををお願いします。

#### ●シティプロモーション推進課職員

- ・高校生に西条市を好きになってもらい、地域で楽しい思い出やつながりをつくった上で、将来的な U ターンにつなげる取組を行っている。
- ・大学生に対しては、「西条市には仕事が少ない」というイメージを持つ学生も多いため、まずは市内の仕事や企業を知ってもらう機会を提供している。
- ・個別に会って話をしたり、Instagram の DM で相談を受けたりするなど、学生との直接的なつながりを大切にしている。

#### ■参加者

- ・林業をはじめ、地域を支える重要な仕事を移住者に任せるだけでなく、地域の仕事は地域の人が担うという視点も必要ではないか。
- ・若者が進学を機に地域を離れ、そのまま戻らない状況が続くと、地域の活力だけでなく、知的好奇心や課題解決力の低下にもつながることを危惧している。
- ・大学生が戻ってこない理由として「仕事がない」と言われるが、実際の就職活動ではマイナビなどの求人サイトを通じて、大手企業や金融機関などの有名企業だけを受ける学生が多い。
- ・そのため、西条市内に多くある企業の情報を、学生の就職活動にどう届け、選択肢として認識してもらうかを考える必要がある。
- ・若者に西条市へ戻ってきてもらうためにも、市内企業の情報発信を強化してほしい。

#### ●市長

- ・県立高校再編の第 2 期計画(令和 10～14 年度)について検討が進められており、地域の高校や小中学校の校長とともに、地域を知ってもらうための取組を進めている。
- ・高校から大学へ進学した後も、将来的に地域へ戻ってこられる仕組みづくりが重要である。
- ・地域には、知恵や工夫次第で新たな価値を生み出し、仕事や収入につなげられる可能性がある。そうした地域の可能性を高校生などに伝えていきたい。
- ・今後、地域の事業者等にも、校長や就職担当教員との意見交換、高校生との議論の場などに参加してもらい、地域の仕事や可能性を伝える取組に協力してほしい。

#### ■参加者

- ・地域への愛着や理解を育む取組は高校生からでは遅く、小・中学校、できれば幼稚園の段階から、西条ならではの学び(水や農業)を取り入れる必要がある。
- ・この水や農業などを題材に、西条の魅力や地域の環境について学ぶ独自の教材・カリキュラムを設けてはどうか。
- ・地域の事業者や専門的な知識を持つ人が講師として参画し、水の循環や地球環境問題、温暖化などにつながらながら、「なぜ西条が素晴らしいのか」を学ぶ環境教育を学校教育に取り入れてほしい。

#### ■参加者

- ・植物を育てることには経験があるが、経営面については知識がないため、若い世代の取組に期待している。
- ・若い 3 人が一生懸命取り組んでいることを評価しており、今後も応援したい。
- ・自分にできることがあれば協力したいので、必要な際には声をかけてほしい。

#### ■参加者

- ・西条の大切な資源である加茂川の水を、観光などの面でもっと積極的に PR してはどうか。
- ・西之川の橋をきれいに整備するなど、地域には魅力的な場所があるため、こうした資源を活用しながら、加茂川の水や西条の水の魅力を大々的に PR してほしい。

## (4)フリーストーク

### ①水力発電所に係る交付金について

#### ●市長

- ・山間部の水力発電所に伴う電源地域交付金として、毎年約 440 万円が市に交付されている。
- ・今後、この交付金を大保木・加茂地域のために活用できるよう、地域から具体的な要望を出してほしい。
- ・森林環境譲与税については、林業や水の教育、木材利用など、森林の保全や木材の循環につながる取組に活用できるとの説明があった。

### ②森林環境譲与税について

#### ■参加者

- ・森林環境譲与税はどれくらい西条市に入っているか。

・使い道は決められているのか。

●市長

・毎年約1億 1,000 万円が西条市に入っている。  
・水の教育などの林業に関わることに使われている。

■参加者

・山の下刈りとかをした時の上乗せもそこから出ている。

■参加者

・森林環境譲与税の使い道として、大保木地域が周りの自治会を取りまとめて要望を出すのはできるのか？

●市長

・森林環境譲与税は、森林を守る取組だけでなく、木材の利用や木の循環を促す取組にも活用できる。  
・例えば、ケビンなどの木造施設や消防団施設の整備に地域材を使用する場合、その木材利用に森林環境譲与税を活用することができる。  
・木材を使うことを通じて、木の循環や森林について知ってもらう取組にも活用できる。

■参加者

・集会所の畳をフローリングにしたいという場合、杉板のフローリングにしたいという場合はどうか。

●市長

・自治会の持ち物は 1/2 の補助になる。

③宿泊施設・民泊について

■参加者

・山間部で宿泊施設を運営することで、施設周辺の草刈りや自治会活動への参加など、地域の維持につながっている。  
・都市部で進む民泊規制の波が地方にも及ぶ場合には、僕自身も議論できる場に参加したい。

④山間部の道路・登山道について

■参加者

・山間部の集落へつながる道路が、イノシシなどの影響で荒れており、通行が難しくなっている。山仕事や土木、登山など幅広く利用される道であるため、通行することがあるが、かなり危ない。  
・かつては集落が主体となって維持していたが、今はどんどん荒廃してきている。  
・集落が主体になって修繕する事例や、活用できる補助金・支援制度があれば教えてほしい。

●市長

・確認させてください。

#### ■参加者

- ・東之川は樽の滝などの観光資源があるが、草が生い茂り、知った人じゃないといけない。
- ・パンフレットなどで紹介されているので、人が観光で来ているが、危ない。
- ・簡易舗装が剥がれている場所もある。現地の状況をしっかり確認してほしい。

#### ■参加者

- ・東之川から瓶ヶ森方面への2本の登山道と、西之川から瓶ヶ森方面への1本の登山道は、今年度草刈り等を実施しており、整備されている。
- ・一方、樽の滝への道は集落内の道であり、登山道や市道には該当しないため、別途対応を検討する必要がある。

#### ■参加者

- ・あれは市役所のパンフレットではなく、観光協会のパンフレット。それを持って観光客がくる。

### ⑤地域を支える人材の育成について

#### ■参加者

- ・大保木小学校の解体撤去について、約2,000万円規模の市予算を投入することや、学校がなくなること寂しさを感じている。
- ・一方で、若い世代が地域の文化や取組を継承し、新たな地域づくりにつなげていくことに期待している。
- ・山や森林、道路などの保全には人手不足という大きな課題があるため、地域を支える人材を育てることを行政の重要なテーマとして取り組んでほしい。

## 市長総括

- ・行政から一方的に説明するのでも、地域の意見を聞くだけでもなく、対話を通じて課題を共有し、次の行動につなげることが重要。
- ・市役所職員も現場に入り、地域の皆さんと「自分はこれができる」という強みを持ち寄りながら、課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- ・今回のタウンミーティングをきっかけに、地域の皆さんと一歩ずつ行動に移し、課題が生まれれば改善していく取組につなげていきたい。

## 連合自治会長挨拶

- ・人口減少が進む中でも、大保木地域は西条市の水を支える重要な地域である。
- ・今後も地域の意見に耳を傾け、地域を見捨てることなく、若い世代の意見も取り入れながら地域づくりを進めてほしい。